

文化芸術中間支援組織を 用いた地域産業再生モデル

メディア芸術による中小IT製造業へのイノベーションから

岡田 智博 okada@creativecluster.jp

<http://creativecluster.jp/>

創造都市がもたらす 社会と産業のイノベーション

- 創造性を持った個人や集団による能力が発揮できる都市は活力を持った成長を可能とする
- 創造性は芸術だけでなく、社会での振舞いや産業行為を含めた、人間としての営み全般であり、広い意味としての文化である
- 個々の創造性が担保され、それぞれの創造性を活かしかねる環境が、社会や産業への先駆性を与え、成長エンジンとなる

(佐々木雅幸・リチャードフロリダ)

ケーススタディ

ICT分野の社会と産業イノベーションが起きた街・アムステルダム

ICT創造都市 アムステルダムモデル

- アムステルダムはインターネット時代におけるITベンチャービジネスの米国のニューヨークに対する、欧州における有力なインキュベーターであった
 - 1998年までにインターネット系企業の起業が1000社・10000人の雇用を創出(アムステルダムでの総雇用数515000件:2000年)
 - 旧市街に好んで創業する傾向が高いため、旧市街の地価の高騰とともに治安の向上をも招いた
- ICT=Information and Communication Technology

ICT創造都市アムステルダム 立地の背景

- ICT社会を逸早く構築した創造的人材の存在
 - ソーシャルアクティビスト
 - 新しいメディアツールの社会活用を促進
 - ハッカー
 - アクティビストに最新のテクノロジーのアイデアと技術を提供、自身はテクノロジーでできる可能性を極める
 - メディアアーティスト
 - 社会や技術の可能性を作品にして発表
 - ソーシャルアクティビストが発表の場の提供と社会の中での意義付けを担い、ハッカーがテクノロジーの向上の機会を提供
- ICTによる営みそのものを文化としてとらえ、協業して公共圏を確保することに努めてきた
 - 自由な放送の実現(1970年代)
 - 世界ヒット番組(Big Brother)などを輩出するテレビ制作産業の中心に
 - 欧州大陸初の民間使用プロバイダの開通
 - ax4all (ハッカーグループによる) > 後に公社民営化通信会社がブランドごと買収
 - インターネット上での仮想都市と市内無料ネット活用の初期での実現
 - De Digitale Stad (ソーシャルアクティビストによる)
 - メディアアクティビズムを通じた社会実践を実績にソーシャルアクティビストそのものが文化・社会中間支援組織として都市政策に欠かせない立場に
- アムステルダムではこれらを「ユースカルチャー」としてとらえ、アクター側もそうあるように振舞ってきた

ICT創造都市アムステルダム 立地の背景

- ICT公共圏であるアムステルダムは世界のメディア「ボヘミアン」を受け入れた
- 創造的人材のアクターはオランダだけでなく欧州を中心とする世界から
 - プレスナウ 旧ユーゴスラビアの民主化難民通信社にメディア文化中間支援センター(De Balie)の調整を通じてアムステルダムの助成金とオフィスを提供
- ICTによる文化的チャレンジを可能とする都市として、少し先の社会モデルの実現都市として人材が集中
 - 人材の営みを実現するために起業が生まれた

イノベーションのエンジンとしての アクターたち

- **メディアアーティスト**
 - 創造的人材としてクリエイティブ分野で活躍
- **ハッカー**
 - 起業家として産業とICT環境の整備に貢献
- **ソーシャルアクティビスト**
 - 中間支援組織として更なるイノベーションと社会の環境の整備のエンジンとして貢献

ICT創造都市アムステルダムが 物語るもの

- 人類によるテクノロジーの進化は人類の営みそのものをいやがうえにも変える
- 営みを変える上で必要な創造性は社会と密接に結びついた文化活動から生まれる
- 創造的人材による「イノベーティブ」な文化活動を注視し、創造的に営める環境が都市に成長をもたらし続けられる
- 環境を文化として整備し、アクターに営みを与える存在が中間支援組織のここでの役割

あえて今回の発表では
クリエイティブクラス と呼ばずに
創造的人材と呼びたいと思います

「創造階層」は顕在化した人材としての存在に当てはまって
しまう

まだ、顕在化されていない可能性のある存在を顕在化し、
アクターにすることが重要な点と考えている

IT時代における
文化による
イノベーションを日本でも

文化ベンチャーとしての 横浜(創造界限)の優位性

- 文化芸術活動に専念する上でのスタートアップのための立地リスクが低い
 - 展示において演出力があり、柔軟性のある公共スペースが安価かつ大面積で借りることが出来る(ZAIM、BankART1929)
 - そのような高いインセンティブのある空間は、東京には存在していない
 - 公共による文化芸術関連者対象のオフィスの安価な提供、それ以外にも進出移転助成の提供がある
 - インセンティブを得ることが出来た場合、首都圏でいちばん条件のいい安価な立地
- 東京の隣接地域として、かつ、日本における大都市都心部として、活動ステータスが高い
 - 横浜というだけで注目してもらえる、「メジャー感」があるものとしてとらえられる
 - 東京からまだ落ちこぼれていないという認識にたたれやすい
 - 展示事業において東京における同様の規模の展示事業と同等に扱ってくれやすい＝ここで立地リスクの低さが大きくプラスに働く

これだけでは創造性による
文化の外部性への寄与に
十分なのか？

芸術分野のアクターは存在するがそ
れ以外の人々に貢献できるか？

文化ベンチャーとしての 横浜での活動資源の探索

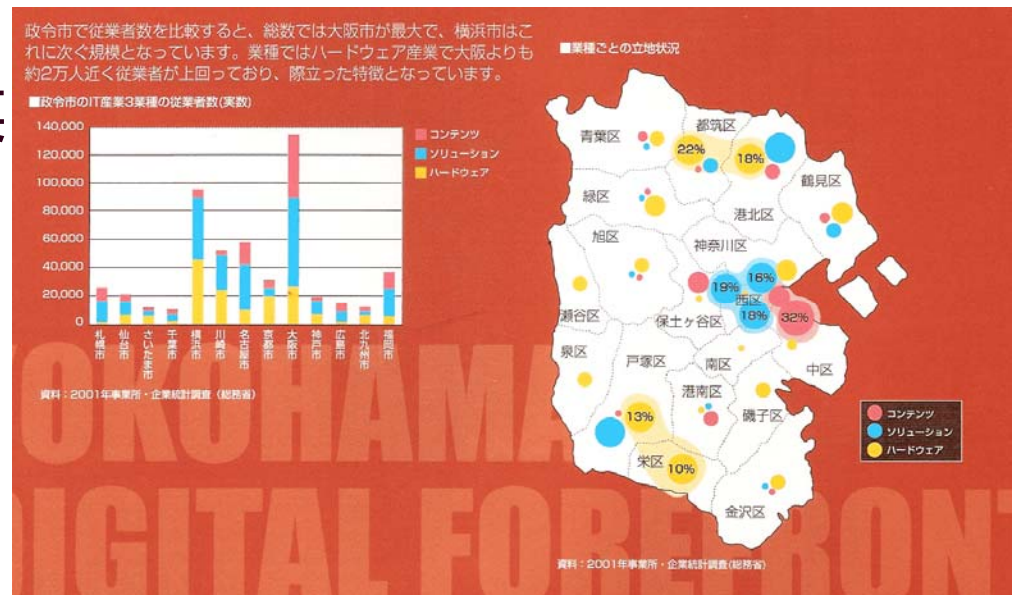
横浜でイノベーションが求められる分野の探索

- 横浜が抱える課題
 - － 横浜独自の発信力のある産業がほとんど存在していない
 - 東京の後背地として工場・研究所地帯としての立地
 - － 下請けの産業都市・横浜
 - 東京からの情報を首都圏として受容するだけのコンテンツ立地
 - － 「ベッドだけ」タウンになりかねない横浜
- 横浜独自で創造性を発揮できる分野は何か？

横浜でイノベーションが求められる分野の探索

- 横浜における特徴ある産業としてIT製造業が大きい
- 主な立地は大企業のマザーファクトリー、研究所とそれを支えるものづくり・開発型中小企業群
- IT製造業分野における中小企業はコモディティ化によって下請けに甘んじる構造にある

CreativeCluster



クラスター型産業育成の限界

- コモディティー化の中での下請けから脱却して、中小企業の連携による独自のプロダクト開発を目指すクラスターづくりの取り組みを新横浜地域を対象に市経済局が実施してきた
- 目標は300社以上の連携による独自のIT家電の開発
- 勉強会や交流会としての盛り上がりは続くが、誰一人としてリスクを払って、連携を実施してゴールを目指そうとする存在が無かった
 - 市からの金があれば受託して開発できる
 - ある種の下請け的発想による甘えが事業実施の壁になる
 - 「産学協同ビジネス」という新たな下請けスキームも(例:ロボット分野)
- 目標があっても、それに取り組むことで、個々の事業者に対する成功モデルが描けていない上での停滞
 - リスクを払ってチャレンジして結果が享受できるのか
 - そもそもどれだけのリスクもあるのかも分からない

創造的人材による イノベーションの可能性を提示 2005

- 大企業に頼らなくても、独自の創造性で先駆的なプロダクトにつながる「作品」を送り出せるメディアアーティストやデザイナーによる魅力的な作品を実際に展示、評価できる場を提供し、中小の存在であっても先駆性で競争力のあるプロダクトができることを示す
 - 制作プロセスを披露することでエンジニアであっても具体的な理解ができるようになる
 - それぞれの作品に対する魅力が実感できる第一級の先駆的な展示構成を実施：理解の醸成が参加意欲に
 - メディアやトレンド牽引者の外部評価が価値を高める
 - 展示実績作品が2006年度のメディア芸術祭・10年展で2割強を占める結果に＝若手作家の格の向上にも寄与
- チャレンジをしたくなる環境を創生

新しい現実を体験することで チャレンジが生まれた 2006

- リスクが低くチャレンジが出来る環境に
 - 経済産業省の産業クラスター整備の助成金を活用
 - 助成金をシードに中間支援組織「Yイノベーションセンター」を設立、参加者へのコンサルティング支払いリスクを軽減
 - Yイノベーションセンターをプロデュース役に、開発力のあるアーティスト・デザイナーと参加企業がリスク分担を果たしながらプロダクト開発を実施
 - 設計開発・デザインリスク＝アーティスト・デザイナー
 - 技術ソリューション・製造リスク＝参加企業
 - 最適なマッチングづくり・制作監理・PR・マーケット開拓＝中間支援組織

独自のプロダクトが 生み出される段階へ 2006

- 連携によってワーキングモデルが実現
- 実際の展示活動を通じてイノベーティブなプロダクトとして評価を得る
 - 中小企業がインテルやマイクロソフトと対等にディールを動かせる存在に
 - 実際のプロダクト化を待望し支援するアクター（流通等）の登場
 - より有力なアクターが参加を求めて集まる循環に

今後の展開

本当のイノベーションの始まり 2007

- 行政からの助成スキームからの脱却
 - それでもリスクを払って動き始めた
- プロトタイプ技術を背景にした少数生産型、脱コモディティーIT機器の製品化のプロセスを実施中
 - 11月の東京におけるデザインフェスティバル期間に東京におけるプレミアスペースでの展示発表と販売開始
- 中小企業と創造的人材が連携した脱コモディティー化IT機器という地域産業再生を伴ったイノベーションがここから始まる

課題と問題

政策のルールに乗れない不都合さ

- Yイノベーションの事業は、横浜市における政策ルールである、IT産業の推進（デザインなのでITに入れられない）、映像産業（デザインと製造なので入れられない）など、政策メニューの不整合さによって、地場が動き出しているのに放置されている状況になっている
– 平成19年度以降

日本における「イノベーション」の限界

- 日本の経済学における「イノベーション」は、技術評価に偏っており、創造性による「イノベーション」への評価がなされていない状況にある
 - そのことが技術とコモディティとのいたちごっこを生み出している

解決のために

- 社会動向にあった縦割り政策の転換が必要
 - 国がだめなら地方で独自にするべし
 - 既にこの枠組みで行っているのとあてはまらないものを排除したり、無理にあわせさせる政策誘導からの脱却が必要
 - 経済政策＝コンテンツ、IT、デザイン、ものづくり、イノベーション：みんな違う
- 分野の縦割りではなく、相互の分野の外部性による社会価値の向上にアクターは取り組むべきであろう